

平成 27 年度
共同公開講座報告書

平成 28 年 3 月

公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム

も く じ

1. 地方創生市民シンポジウム	1
2. クオリティ・オブ・ライフ～地方都市に暮らす魅力～	7
3. 富士山が与える駿河湾の豊かさー地域連携型洋上セミナーー	11
4. よく噛んで、美味しく食べて、元気なからだー咀嚼が創る健康長寿ー	15
5. 第4回静岡2.0フォーラムー今、私たちができる「地域」づくりー	19
6. 連続講座「いのちを考える」	27
7. 多文化共生都市をデザインする	47

この報告書は、静岡県委託事業「平成27年度大学間等の連携による共同公開講座開催業務」を受けて公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアムが開催した共同公開講座の記録を取りまとめたものです。添付資料のうち、页数の多いものは冊子に含めず、当コンソーシアムで保管しております。

募集要項・様式などについては当ホームページにてご覧いただけます。

URL: <http://fujinokuni-consortium.or.jp/introduction/index.html>

1.地方創生市民シンポジウム

実施事業の概要

1 共同公開講座の名称：地方創生市民シンポジウム

2 開催日時：2015. 9. 12

3 開催場所：浜松市勤労会館（U ホール）

4 事業の概要と成果：

参加者 328 名、スタッフ 28 名

【事業内容】日本のほかの地方都市同様、浜松市にも今後高齢化の波が押し寄せる。すでに人口は減り始め、少子化も進行している。浜松都市環境フォーラム（以下、フォーラム）は、長年、浜松市の都市構造、産業構造を徐々に変えてゆかなければ明るい将来は来ない、最も期待できる新規インフラ整備は LRT 導入であると主張してきた。そして、「地方消滅」というフレーズが登場し、国も「地方創生」を声高に叫び始めた。もはや待ったなしの状況に、フォーラムは、静岡大学地域課題解決支援プロジェクトからの支援（申請採択）を受け石破茂地方創生担当大臣を迎えてしみんシンポジウムを開催することになった。

【内容 1】まず、フォーラムから、内田宏泰が「浜松創生市民案」（中間報告）を提示、その内容をつぶさに説明した。提案は二つの柱：「観光振興（浜名湖観光圏）による地方創生」、「浜松型次世代交通システムによる地方創生」からなり、市民の暮らしを支えるとともに、雇用を生み出し新しい産業振興をめざすものとなっている。

【講演】間もなく LRT 整備事業を具体化させる栃木県宇都宮市の荒川辰雄副市長による、宇都宮市の状況について説明があった。宇都宮の交通網、周辺に立地する工場群、財源、利用予測、行政としての決意と今後など、きわめて具体的な内容について解説がされた。

【特別講演】石破茂地方創生担当大臣の「地方から創生する我が国の未来」出身地の鳥取県山間部や各地の事例を織り交ぜ、増田レポートや藻谷浩介氏の主張などを紹介しながら、日本がおかれている状況、国は、知恵を絞り実践しようとする地方を、人、予算、制度の面から支援するということを述べた。

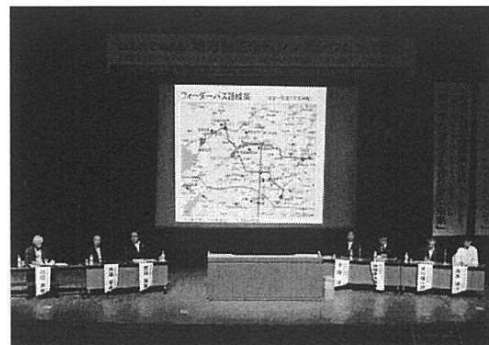
【パネルディスカッション】石破氏をのぞく登壇者、柳川樹一郎市議、曾根原今朝敏（浜松高台商工発展連合会会長）、宮田洋（遠州鉄道運輸本部長）、青木優汰（静岡大学地域課題解決支援プロジェクト、高校 1 年生）によるパネルディスカッションを川口宗敏氏（静岡文化芸術大学名誉教授）の司会のもとに展開した。

開催内容

- 開催日時 平成 27 年 9 月 12 日（土）9：10～12：25
- 開催場所 Uホール（勤労会館）
- 参加者 350 名、他スタッフ 25 名
- 配布資料 浜松創生・市民案（A3 サイズ両面カラーコピー）
アンケート用紙（A4 裏表）
地方への多様な支援と切れ目のない施策の展開（石破大臣より）
- 提案発表 テーマ1 「観光産業振興による地方創生」
テーマ2 「浜松型次世代交通システムによる地方創生」
- 特別講演 テー マ 「地方から創生する我が国の未来」
講 師 石破茂地方創生担当大臣
- パネルディカッション
テ ー マ 「LRTは地方創生の切り札となるか」
コーディネーター 川口 宗敏（静岡文化芸術大学名誉教授）
パネリスト 荒川 辰雄（宇都宮市副市長）
柳川 樹一郎（地域公共交通活性化推進議員連盟）
曾根原今朝敏（浜松高台商工発展連合会会長）
宮田 洋 （遠州鉄道株式会社取締役運輸事業本部長）
青木 優太 （静大地域課題解決支援プロジェクト委員）
内田 宏康 （浜松都市環境フォーラム代表）



特別講演(石破大臣)



パネルディスカッション

(様式第2号 - 別紙)

各回ごと別葉に記載すること。

実施事業の概要

- 1 共同公開講座の名称：地方創生市民シンポジウム（第2回）
- 2 開催日時：2016. 1. 11
- 3 開催場所：静岡文化芸術大学 講堂
- 4 事業の概要と成果：

参加者98名、スタッフ22名

【事業内容】

「浜松創生市民案」の提案と徹底討論！

提案発表

- 第1部 若者がつくる未来：浜松西高校1年生 大高真寛
- 第2部 音楽と観光がつくる未来：浜松西高校1年 青木優太、小浜諒
- 第3部 LRTがつくる未来：浜松都市環境フォーラム 内田宏康

徹底討論

提案と発表の後に、会場と回答者による討論を実施

ファシリテーター 日比谷憲彦（静岡文化芸術大学准教授）

回答者 内田宏康 浜松都市環境フォーラム

西原 純 静岡大学情報学部教授

戸田三津夫 静岡大学工学部准教授

開催内容

- 開催日時 平成 28 年 1 月 11 日（月・祝日）
13：00～17：00
- 開催場所 静岡文化芸術大学講堂
- 参加者 98 名、他スタッフ 22 名
- 配布資料 浜松創生・市民案（A 4 サイズ 24 ページカラーコピー）
アンケート用紙（A 4 裏表）
質問意見カード（第 1 部～第 3 部各 1 枚）
- 提案発表 浜松創生・市民案の発表
 - ・第 1 部 若者がつくる未来
発表者：大高真寛（浜松西高 1 年）
 - ・第 2 部 音楽と観光がつくる未来
発表者：青木優太、小浜諒（浜松西高 1 年）
 - ・第 3 部 L R T がつくる未来
発表者：内田宏康（浜松都市環境フォーラム代表）
- 徹底討論 各部とも提案発表の後に、会場と回答者による討論を実施
 - ・ファシリテーター
日比谷憲彦（静岡文化芸術大学準教授）
 - ・回答者
内田 宏康 浜松都市環境フォーラム代表
西原 純 静岡大学情報学部教授
戸田三津夫 静岡大学工学部准教授
 - ・質問・意見カード提出者数
第 1 部 12 名
第 2 部 12 名
第 3 部 18 名

「浜松創生・市民案」の概要

地方創生は「人口減少問題の克服」と、「若者が将来に夢と希望を持てる魅力のあるまちづくり」を実現する絶好のチャンス！ 本市民案は人口減少時代における浜松市の成長分野を「観光と音楽と交通」と位置づけ、実現を前提とした具体的な提案にまとめた。最大の特色は、まちづくりに要した費用は、実現後の都市自らが生み出すという、「持続可能な都市づくり」を目指していることにある。

第一部 地方人口ビジョン 若者がつくる未来！

■若者が安心して就職・結婚・出産・子育てのできる魅力ある都市づくり

「消滅可能性市町村 896 全リスト」が公表された。浜松市はリストにこそ含まれていないが人口減少は深刻な問題。人口減少問題を克服するには 20 代・30 代の男女が安心して就職・結婚・出産・子育てのできる環境と、便利で住みよいまちづくりが不可欠となる。若者が夢と誇りをもてるような魅力的なまちづくりを提案！

- ・次世代産業と雇用の創出
- ・大学生 I ターン奨学金制度
- ・幼稚園と保育園の縦割り行政の改革
- ・共働き時代に対応した若者支援政策
- ・育児休暇を利用しやすい社会環境の整備
- ・高齢者施設併設保育所整備（待機児童ゼロ）

第二部 地方版総合戦略Ⅰ 音楽と観光がつくる未来！

■観光産業・音楽産業振興による地方創生

人口減少による消費・地域経済の減少を何で補うか。次世代産業と雇用の創出は浜松創生にとって重要な課題。その点、観光と音楽は最も有望な成長産業。『他都市にはない個性と魅力』、『スムーズに移動できる公共交通アクセス』を整備して元気のある浜松に。

- ・浜名湖観光圏整備事業
- ・浜松産業博物館整備事業
- ・庄内半島縦貫ルート整備事業
- ・インバウンド（訪日外国人旅行）促進事業
- ・浜松物語（家康・直虎歴史探訪）整備事業

第三部 地方版総合戦略Ⅱ LRTがつくる未来！

■交通事故件数ワーストワン都市からの脱出

浜松市は政令指定都市中、人身事故事件数が 6 年連続ワーストワン。出勤時が特に多く、この時間帯に 1 万 4,600 名の高校生が自転車通勤者で通学している。通学・通勤問題から安全・快適なまちづくりを考える。

- ・次世代交通システムで公共交通分担率倍増
- ・公共交通利用促進事業
- ・自転車専用レーン整備事業
- ・サイクルトレイン・LRT 整備事業

■浜松型次世代交通システムによる地方創生

超高齢社会の到来に備え、誰もが容易に移動できる浜松型次世代交通システムを提案。輸送力・定時性・採算性が高く、環境にやさしい LRT の導入と路線バス再編、パーク＆ライドによる車からの乗り継ぎにより、公共交通全体の利便性と運行効率をアップ。利便性・快適性の高い LRT 沿線には、住宅や店舗・事業所等の集積が誘導され、沿線集約型のコンパクトシティが実現する。

- ・運輸連合による公共交通活性化事業
- ・交通弱者対策・地域間交通格差是正事業
- ・中心市街地活性化事業
- ・L R T 導入に伴う路線バス再編事業
- ・先進的未来都市（浜松北地域）整備事業
- ・パーク＆ライド、サイクル＆ライド整備事業
- ・沿線集約型コンパクトシティ整備事業

浜松都市環境フォーラム 浜松市南区東若林町 1220-5 ☎ 053-448-7119 FAX053-448-7164 wbs02606@mail.wbs.ne.jp

都市問題・環境問題を市民の立場から研究するため 1985 年に設立。2002 年に「浜名湖 100 年計画」を発表、その中で L R T を基幹交通とする次世代交通システムを提案。2010 年に大学との協働研究により「浜松型次世代交通システムの提案」を発表。2015 年 4 月、静岡大学イノベーション社会連携推進機構との協働により、地方創生・市民案の研究に取り組む。2015 年 9 月、石破茂地方創生担当大臣を講師に迎え、地方創生市民シンポジウム（中間報告）を開催。



討論会場（左ファシリテーター：日比谷、右答弁者：内田・戸田・西原）



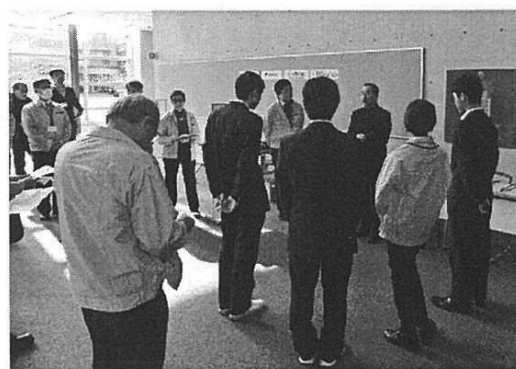
答弁者（内田・戸田・西原）



第2部提案発表



客席の様子



スタッフ・ミーティング

2. クオリティ・オブ・ライフ

～地方都市で暮らす魅力～

実施事業の概要

- 1 共同公開講座の名称：Quality of Life 地方で暮らす魅力
- 2 開催日時：① 9/25（金） ② 10/18（日）③ 11/21（土）
- 3 開催場所：① 常葉大学水落校舎 ②浪漫館 14 階（清水マリニビル別館）③ 常葉大学水落校舎
- 4 事業の概要と成果：

（1）事業の概要

① 第1回 オープンデータを使った地域課題の解決と地方都市の暮らし

講師

「横浜市のオープンデータ・オープンイノベーション」長谷川孝理事（横浜市政策局）

「不動産総合データベース」長谷川宏美課長補佐（国土交通省土地・建設産業局不動産課）

「横浜市の不動産総合データベースの関わり、横浜市としての活用方策」関口昌幸係長（横浜市政策局政策部政策課）

ファシリテーター 杉本直也（静岡県交通基盤部建設支援局 技術管理課 0A 効率化班）

「ふじのくにに住みかえる - 静岡県の移住・定住施策」池谷廣部長（静岡県くらし・環境部）

「グリーン・シティ・ポートランドの街と暮らし：地方都市のこれからを考える」村山顕人（東京大学大学院工学系研究科 准教授）

ファシリテーター 今川俊一（静岡市都市局都市計画課）

参加者数 50 人

② 2回 港の歴史・文化を活かしたまちづくり

講師

「清水港の歴史・生活史」黒瀬武史（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻助教）

望月美希（東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻）

「巴川と北街道：自転車ステーションの設計課題を通して」伊達剛（伊達剛建築設計事務所・常葉大学非常勤講師）常葉大学造形学部環境デザインコース 3 年生、村井裕（しずおかモビリティ研究会）杉山智之（杉山智之建築事務所・しみず蔵倶楽部）「清水湊の遺産とその活用」

参加者数 50 人

③ 第3回 地方都市における暮らしの魅力

講師

「静岡市のシビックプライドの現状と課題」安武伸朗（常葉大学造形学部教授）

「静岡市の歴史文化まちづくり」中島一彦（静岡市観光交流文化局家康公四百年祭事業推進本部長）

シンポジウム「デザインシンキングを生かしたイノベーション創造の可能性」

志村真紀（横浜国大・地域実践教育研究センター准教授）河野季代子 池ヶ谷 知宏 彌田 徹

参加者数 80 人

(2) 事業の成果

本公開講座の内容

第一回の「オープンデータを使った地域課題の解決と地方都市のこれから」では、まず、横浜市のオープンデータ・オープンイノベーションについての取り組みが紹介された。現在の地域の大きな課題は、人口減少であるが、地域課題が解決されることによって地域資源にもなりうる。オープンデータはこうした解決の糸口になると考えられるが、産官学がどのように連携していくかが課題となる。横浜市の先進的な取り組みから、実際に、オープンデータを活用してどのようなことが可能になるのか、「不動産総合データベース」の構築を例として考えた。国土交通省は、「不動産総合データベース」の構築に際して、横浜市で実証実験を行い、それによって全国展開を計画している。横浜市では、不動産総合データベースの関わり・活用方策から、行政内部での調整や産官学の連携の方法が示唆された。他方、横浜市では、介護と子育てといったダブルケアの問題を抱えている。「不動産総合データベース」をこうしたダブルケアの問題解決に活用しようとしている。

静岡県では、空き家数が約 27 万戸に達しており、大きな問題となっている。静岡県では、「ふじのくにに住みかえる - 静岡県の移住・定住施策」により、空き家を活用した移住定住を促進しようとしている。オープンデータの活用により、こうした空き家問題を解決する端緒を見出すことも可能であろう。今後、市町や関係団体との連携によって、実効性のある施策となることが期待されるが、そのためには静岡県の暮らしの魅力を県外にもアピールしていく必要がある。

全国的にコンパクト・シティ（集約型都市）が推進されているが、都市の中心とその周りとの都市とのネットワークをいかに構築するかについては、課題も少なくない。地方都市ならではの、クオリティの高い生活を実現するためには、どのような都市計画が必要かといった点を、ポートランドを例として考えた。

第二回の「港の歴史・文化を活かしたまちづくり」では、暮らしにおける港の魅力を考えた。住民意識を調査し、地域のオーラル・ヒストリーを通じて、清水日の出地区の石造倉庫群の歴史的価値やコンバージョン・リノベーションによる新たな価値の創出について、掘り下げた議論が展開された。

第三回の「地方都市の暮らしの魅力」では、「静岡市のシビック・プライドの現状と課題」と題し、静岡市の魅力、市民の誇りについて検討が加えられた。静岡市は、駿府城公園を中心として広域的に歴史的な地域資源を活用し、本年度は、家康公 400 年祭が執り行われているが、今後、行政、民間、個人が連携して、歴史的な地域資源を活用した、歴史まちづくりを進める仕組みづくりが必要である。「静岡市の歴史文化のまちづくり」では、歴史を新たなイノベーションにつなげ、インバウンドによる経済効果を狙うことが、人口減少社会では必要であることが示され、そのためには、「わくわくどきどき」感が重要であることが示された。

シンポジウムでは、静岡県在住の若手起業家が自らの体験を通じて、地方で暮らす魅力とは何か、について考え、イノベーションの可能性についてディスカッションを行った。

関連イベントとして、東京大学都市デザイン研究室、常葉大学造形学部を主体とした、学生による地域資源を活用したアートイベント『ミナトブンカサイ 2015』を今年も継続して実践した。自転車ステーションを使った地域資源の魅力発信（北街道 水落～清水）に

について、造形学部の学生が模型をデザインし、プレゼンテーションを行った。また、法学部の学生が清水地域の住民のオーラル・ヒストリーを集め、市民と地域課題を共有し、今後の日の出地区について考えた。さらに、しずおかモビリティ研究会・静岡市交通政策課と連携して、エリア・デザイン研究会の学生がしずおか散走に参加、ワークショップにより、「けいきさんの自転車 Map」作成し、配布した。

本公開講座の成果・今後の課題

人口減少社会は価値観が変化している。

人口減少に立ち向かうためには、移住促進によって定住人口を増やす方策が考えられるが、定住人口を増やすためには、地域資源の魅力を内外にアピールすることが必要である。他方、インバウンド観光の効果も重要なことから、定住人口だけでなく交流人口を増やす施策も考えられる。歴史的資源にイノベーションを加え、付加価値のあるものにする取り組みやシビックプライドを基礎にブランディングし、歴史を使ってクリエイティブな創造都市を目指すことが必要である。

ポートランドは、世界的にも住みやすい都市として有名であるが、住みやすさは住民が市民参加を通じて努力して築き上げたものである。一連の公開講座や関連イベントを通じて、自分達が住む地域の魅力を高めるためには、自らの努力、地域の連携が不可欠であるという気づきが生まれた。また、市民や若者（学生）が地域資源の魅力に気づき、地方都市での豊かな暮らし方の可能性を感じることができた。さらに、市民と行政との連携の素地が形成された。

もっとも、少子高齢化、人口減少により地方都市はより深刻な課題を抱えている。横浜市の事例に見るように、介護と子育てといったダブルケアの問題は深刻である。静岡県でも、データを分析し、介護と子育てといったダブルケアの問題に、早急に取り掛かり、行政と民間とで連携して取り組んでいくことが望まれる。その際に、横浜市のように、不動産総合データのシステムをダブルケアといった地域課題に活用することも有用であろう。

今後、クオリティの高い地方の暮らしをより高めるためには、シビックプライドを基礎として歴史的・地域資源等の魅力を活かした都市を作り、また、ダブルケアのような問題に行政や民間とで連携して取り組んでいくことが必要である。そのためには、産官学の連携が不可欠である。

謝辞

共同公開講座の開催にあたり、ふじのくに地域・大学コンソーシアムをはじめ、多くの方々のご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

3. 富士山が与える駿河湾の豊かさ

—地域連携型洋上セミナー—

実施事業の概要

- 1 共同公開講座の名称：富士山が与える駿河湾の豊かさ：地域連携型洋上セミナー
- 2 開催日時：平成27年10月11日（日） 9：30～16：00
- 3 開催場所：富士市 田子の浦港 ～ 駿河湾
- 4 事業の概要と成果：
※発表内容の要旨（A4で3枚程度）、詳細記録、プログラム等の配布資料、講座写真データ等の資料は別に添付し、ここでは事業の概要と成果（講師、参加者数、要旨を含む）をA4で1枚に記載すること。

◇参加者数：富士市民58名

◇解説：「田子の浦港と海岸について、海から眺めながら学ぼう」
講師：静岡県田子の浦港管理事務所 所長 桜井 孝洋
（要旨）当日配布資料「富士 平野部 豪雨時冠水箇所（抽出）」に基づき、田子の浦港の特徴と環境保全問題、田子の浦港周辺の防災対策等について解説した。

◇実験及び解説：「駿河湾をめぐる「水」」
講師：東海大学海洋学部海洋地球科学科 講師 小松 大祐
（要旨）観測点で行ったCTD（塩分・温度・深度）観測の結果を示しながら、駿河湾の海水の起源について解説した。また、北大西洋を起源とし、2000年余りの年月をかけて海底付近を移動し北太平洋までやってくる太平洋深層水について、その形成と移動の様子を再現した水槽実験を行った。さらに、最近の海洋学部の活動として、富士市沖で見つかった海底湧水の観測結果、及びそれらを再現する水槽実験も行い、駿河湾をめぐる「水」について解説した。

◇見学：「望星丸船内を探検！」
東海大学海洋学部の学生による船内見学
（要旨）参加者は10班に分かれ、学生の誘導により、船内の操舵室や研究室等を見学すると同時に、採取した深層水体験、採集したプランクトンの観察、発砲スチロール容器による水圧実験、船員によるロープワーク等を体験した。

◇成果： 東海大学所有の海洋調査研修船「望星丸」を用いて、市民参加型のスタディ・クルーズとして洋上セミナーを開催した。多様な水塊と生物生態系をもつ豊かな駿河湾を形作っている背景には、富士山からの河川、湧水の水の流れが大きく関係しており、望星丸での海洋観測を通して、富士山と駿河湾の関わりについて市民の方々に学んでいただくことができた。

東海大学「望星丸」
「田子の浦港・駿河湾」洋上セミナー
フォトアルバム

2015年10月11日(日)

主催: 富士市



